

2022年後半のグローバル市場の行方（上）



シニア・ストラテジスト 石黒英之

ポイント① 年前半は幅広い資産が下落

2022年前半相場も残りわずかとなりました。年前半のグローバル市場を総括すると、株式やリートなどのリスク資産に加え、安全資産とされる債券や金売られるなど、幅広い資産が下落する「全部売り」の展開となりました（右上図）。

背景には、①FRB（米連邦準備制度理事会）による利上げ加速とそれに伴う景気後退懸念、②ロシアによるウクライナへの軍事侵攻に伴う資源高、③中国のゼロコロナ政策による同国景気の下振れと、供給網混乱に伴う世界的なインフレ懸念、などがあります。波乱の展開となった2022年前半相場ですが、年後半はどのような展開となるのでしょうか。

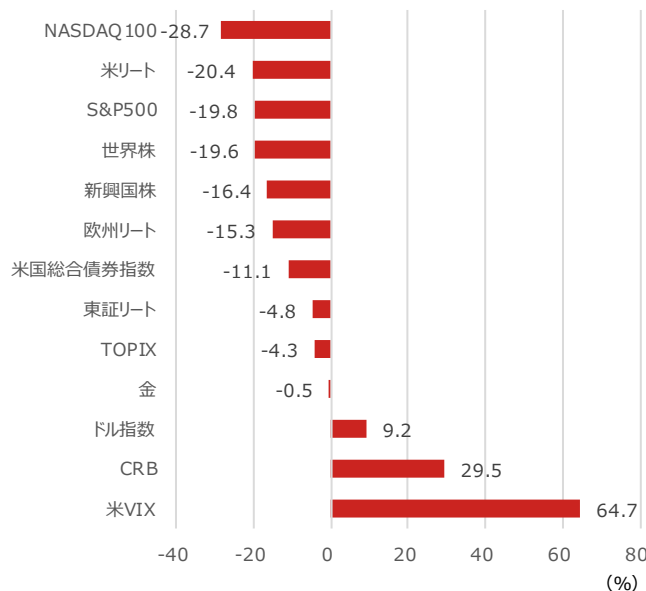
ポイント② 中国景気回復機運の高まりは好材料

結論から言いますと、先述した①～③の背景のうち、①、③が徐々に和らぐ可能性があり、リスクオフの流れは一服すると想定されます。

中国では厳格なゼロコロナ政策により景気悪化が鮮明となり、4月の中国製造業PMI（購買担当者景気指数）は大きく落ち込みました。ただ、5月に同指数は持ち直しの動きをみせたほか、6月27日には都市封鎖に苦しんだ上海市に加え、北京市でも、今年2月以来となるコロナ新規感染者がゼロとなるなど、コロナ抑制策が機能しているようです。

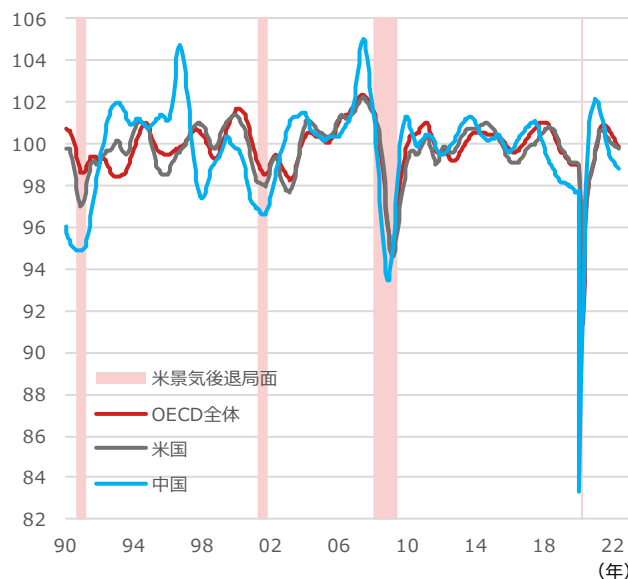
世界を見渡すと、インフレ抑制に向けた金融引き締め強化の動きから、世界景気の後退懸念が高まっています（右下図）。ただ中国では、コロナ規制の緩和や、当局による金融・財政両面からの刺激策で景気浮揚が見込まれており、年前半の懸念材料の一つであった中国リスクが後退しつつあることは、年後半相場を見る上で支援材料となりそうです。

主要指数の年初来騰落率



期間：2021年12月31日～2022年6月28日
 ・米リートはMSCI米国REITインデックス、世界株はMSCI All Country World Index（米ドルベース）、新興国株はMSCI Emerging Markets Index（米ドルベース）、欧州リートはFTSE EPRA Nareit Developed Europe REITS Index（ユーロベース）、米国総合債券指数はBloomberg US Aggregate Bond Index（米ドルベース）を使用
 （出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

OECD景気先行指数



期間：1990年1月～2022年5月、月次
 （出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

*当資料は、一部個人の見解を含み、会社としての統一見解ではないものもあります。

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。ご自身でご判断ください。